

今宮工科高校で出前講座

3年生62人が鉄筋組立作業を体験

関西鉄筋工業協同組合は6月16日（木）、大阪府立今宮工科高等学校（大阪市西成区出城1-1-6）で出前講座を実施し、同校の3年生62人が柱と壁の鉄筋組立作業を体験しました。

この出前講座は、組合の社会貢献活動の一環として昨年から学生や生徒たちを対象に実施しているもので、鉄筋工事の役割や重要性を理解してもらうとともに、組立作業を体験することでものづくりの楽しさや魅力を伝えることが目的。

実習に先立って、まず同校の高嶋保校長が挨拶し「ものづくりを学ぶことは、人の役に立つということを学ぶ価値あるもの。建物で最も重要な部分である鉄筋の実技をプロの職人さんに教えてもらえるまたとない機会であり、有意義な時間を過ごしてほしい」とその成果に期待を寄せました。また、組合を代表して挨拶した岩田正吾理事長は「鉄筋は建物が完成してしまうと外からは見えないが、長く仕事を続けていると“自分たちがこの建物を支えているんだ”と思えるようになり、そこに職人の美学がある。皆さんもものづくりの意味や目的が分かった時、初めてその仕事を続けていくことができるようになる。きょうは、少しでもそのお手伝いができればと思っている」と述べました。

講座は午前と午後の2回、建築生産専科の3年生25人のクラスと建築設計専科の3年生37人のクラスに分けて行われました。生徒たちは注意事項などの説明受け、ビデオを見た後、班ごとに分かれ柱と壁の鉄筋組立作業として800ミリ四方、高さ1750ミリの柱筋を地組みし、2400ミリ間隔で設置した後、4スパン分の壁筋をハッカーを使って結束。また、ベース・柱・地中梁の組立作業として2級技能士の検定試験課題にも挑戦しました。最初は戸惑い気味だった生徒たちも職人らの指導を受けてハッカーを使った結束作業も徐々に上達し、後半は楽しそうに組立作業を体験していました。

作業の終了後には、田浦真一副理事長が講評として「生徒の皆さんに注意を守ってもらい、安全に作業を終えることができた。みんなで力を合わせて組み上げたことが何よりの成果だ。この講座を通じて働くことの意味を感じ取ってもらえたのではないかと思っている」と挨拶。これに対し、生徒の代表が「貴重な体験ができた。ハッカーを使った結束作業は楽しかった。今後の就職活動の参考にしたい」と謝辞を述べました。

今回の出前講座には、組合から岩田理事長、田浦副理事長のほか中川六雄氏、森山直樹氏、初岡憲氏、恵谷信氏、また正栄工業、田村工業、田浦、中鉄から合計5人の職人が参加し、生徒たちを指導しました。

次ページに続く・・・

講義状況

